

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交通と環境（１）	
日付：１１月　　１日　（土）曜日、セッション時間：　　１３：１５～１４：４５	
司会者名（所属）：　伊豆原　浩二（名古屋産業大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 本セッションでは、管理側から見た円滑な交通を確保する方策としてのネットワーク通行権取引制度の提案の１編、エコドライブに関連した走行モードの相違によるＣＯ２削減の可能性についての研究とアイドリング状態およびその季節変動についての研究の２編の発表であった。研究内容、言語等から司会者では各発表ごとの討議が望ましいと判断し、進めた。 なお、最後の６６番の発表では、ＰＣとＯＨＰのシステムダウンにより、発表者に多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びしたい。
	（発表番号）発表者名（所属）：（６４）和田健太郎（東北大学大学院情報科学研究科） １．設定しているネットワーク、ＯＤの特殊性、モデル内での誤差項の意味など想定している都市交通状況や理論的な成立条件などモデルの理論と一般性について議論された。 ２．モデルネットワークでの適用可の結論から一般的なネットワークへの適用の可能性、モデルによって得られた期待値のロードプライシング施策への展開の可能性など実用化の可能性について議論された。
	（発表番号）発表者名（所属）：（６５）森　健二（科学警察研究所） １．アイドリングストップの効果と停止時間、停止回数との関係、また旅行速度は分析では用いても、運転者には結果でしか確認できないとするとエコドライブの啓発への利用可能性について議論された。 ２．混雑時や閑散時の定義については実際の交通現象として決めることは難しいが、車両感知器によるデータ収集分析などによって検討していく必要性について議論された。
	（発表番号）発表者名（所属）：（６６）Anabel A.ABUZO（東京工業大学大学院総合理工学研究科） １．アイドリングの状態変化、季節変動とＣＯ２排出削減との関連性について議論された。 ２．データの収集と内容に関連して、ＥＣＣＪのデータの内容、運転モード（加速、減速、走行、アイドリング）に関するデータと研究状況について議論された。 ３．エコドライブ行動への影響要素として、ドライバーの運転特性など個人の特性に関する分析の必要性について議論された。